

(来週の展望)

今週のマーケットは、木曜までは今まで通りの持ち合いが継続していましたが週末の金曜日に大きく下落し、日経平均では大引けで今まで下値となっていた主要な移動平均線を割り込んで終えました。この時点では、所謂下離れとなります。

背景はお盆休みや FFR を控えて買いが入らない状態の中、トルコリラが急落しユーロが急速に売られたことによってかねてからトルコ等の新興国へのエクスポージャーが多い欧州の銀行に心配ネタが拡散し、朝から米系証券の半導体への格下げでハイテク株への売りが出ていたのに加えて主要セクターに一齐に手じまいが出たものと思われます。

我が国に直接影響する FFR ですが、2日目の会議を終え貿易不均衡是正で貿易拡大への協力で一致となり、日米貿易摩擦での懸念は先送りとなったようです。その分、9月の日米首脳会談に向けて円安になりにくい地合いは継続することとなります。

また、9月には自民党総裁選を控え安倍政権は日銀を使った円安誘導は出来なくなっていますので、何らかの内需拡大策を出してくる可能性があると考えます。

従って、来週の懸念材料は今のところ新興国の不安定な状況によって安全資産への資金逃避が起きて金利低下⇒円高と言ったことが考えられます。特に、15日には大量の米国債の利払いがあり本邦金融機関の保有する円転の動きが大きな円高圧力となる可能性があり一時的に円高が加速する可能性があります。新興国通貨以外にも英国においてブレグジットの過程でもめており、ポンド売りが加速していますのでユーロ売りは継続しそうです。

つまり、

ポンド・ユーロ売り⇒ドル買い⇒新興国通貨売り⇒リスクオフの円買い
が考えられます。

また、東証マザーズ指数も再度下落に転じてきていますが、マザーズ内の時価総額の大きい一部銘柄が業績悪によって急落している影響が大きく、今後新興市場の銘柄は日銀買いが入らないこともあり、総花的に買われる展開とはならないと思われ益々銘柄選別が重要となりそうです。その意味でも来週の四半期決算は注目されます。

現状では、日経平均の EPS は約 1 7 0 0 円を維持しており PER 1 3 倍で 2 2 1 0 0 円 となりますので、来週外部環境によってこれ以下に売り込まれるところがあれば、買いを入れてもいい水準と考えられますが、52WMA は 2 1 9 8 0 円に位置しています。

上海総合も今のところ底割れしておらず、中国にも 4 5 兆円の隠し財政資金があると言われており、米国市場でが自社株買い余力が 1 0 0 兆円あると言われていています。日本を含めバブル温存へと世界の政治が舵を切るなら最後の上昇トレンドがいずれやってくることになると思われます。

リスクオフと言われる状態で米国国債の金利は低下するがドルは買われる展開。
アジア通貨危機と同じ構図であり、注意が必要。

米ドル指数先物 **96.19 +0.73 (+0.76%)**



ロシアルーブルも急落しているが、ロシアやトルコはファンダメンタルズは悪くない。
従って、その他ファンダメンタルズの悪い新興国通貨に飛び火しないか注視が必要。

TRY/JPY - トルコリラ 日本円 **17.2400 -2.7650 (-13.82%)**

